## 御即位記念

# 子知名-皇室と鉄斎-

期 2019年10月6日(日)~11月11日(月) 前 期 2019年11月16日(土)~12月25日(水) 後

会 場鉄斎美術館別館「史料館」

開館時間 9時30分~16時30分

休 館 日 10月25日(金)·11月25日(月)·12月8日(日)



15 心遊仙境図



近代文人画の巨匠・富岡鉄斎(1836~1924)が、熱心な勤皇家であったことは広く知られている。幕末、京都の商家に生まれた鉄斎は、少壮の頃より勤皇の志を抱き、藤本鉄石、山中信天翁、板倉槐堂、 江馬天江らの志士たちと盛んに交流しては、国事に奔走した。大政奉還前年の慶応 2 年(1866)に書された《皇国名之書》(No.1)は、京童の口誦するところの古代の律令制における地方行政区分、五畿七道を聞き書きしたもので、時代はまさに尊皇倒幕へ傾いていた。

東京行幸 新政府が樹立し、元号が明治に改元される。大政奉還や王政復古により、京都は政治の中心地となっていたが、新政府内部からは、新たに天皇親政を行うにあたって遷都の気運が高まっていた。天皇は明治元年(1868)に東幸するも、保守派や京都市民への配慮から一度帰還し、翌2年に京都から東京へ遷都した。この二度目の東幸に、鉄斎は供奉している。身分については定かでないが、文久年間の長崎行きには土御門家家士の任務を得たとされ、明治5年の九州巡幸には元薩摩藩士の岩下方平に随行したことから、おそらく相識の旧公家か武家の家人として加わったのだろう。一行は3月7日に京都を出発し、途中、伊勢神宮に参拝した。鉄斎が廟前で詠んだ漢詩を揮毫した《宗廟之詩書》(No.2) は、宮祠の荒廃を嘆き、御神の恩恵を讃えたもので、確固たる尊皇思想が読みとれる。

道中、鉄斎は初めて富士山の姿を仰ぎ見た。この時、明治天皇が富士を見て詠んだ勅詩「東海の天、秀気鍾まり、峻嶮として削り出だす玉芙蓉。孰れか知らん、万古扶桑の鎮、五大州中第一峰」は、勤皇家鉄斎の心に深く刻みこまれる。富士山を「神州第一の山」と見なすことは、89年の生涯を通じて変わることはなかった。水墨で遠望の富士を描いた《富士画》(No.4)は、公卿の東久世通禧が和歌を寄せる合作で、幕末維新の交友関係の一端を窺わせる。

3月28日、一行は東京に到着する。着いて間もなく、神田小川町の宿で描かれたのが《花瓶図》(№3)である。 識語には「明治二年三月、天皇が東巡せられた時、私はかたじけなくも行幸に随行して東京に行くことになった。 蓮月老人が数首の和歌を書いて私に下さった。これはその一つである。この図を描き、あわせてその由来を記しておく」とあり、勤皇家で鉄斎の恩人でもある大田垣蓮月が書した「かぜにしもちらぬこ末はねぎごとのみつのやしろのさくら也けり」の和歌が、桜が生けられた花瓶の中心に配されている。しかし、留守宅からの妻達死去の知らせを受け、鉄斎は急遽帰洛することになった。

久邇宮家からの愛顧 維新後、鉄斎は神職を歴任する。明治6年に神戸・湊川神社権禰宜兼補訓導に任じられるも依願免官、ようやく9年から大和・石上神社少宮司、堺・大鳥神社大宮司を務めた。在勤中には、堺県令税所篤の命で河内大和の御陵調査にあたる一方、私費を投じて荒廃した神社の復興に精力を傾けた。10年2月、明治天皇が堺県に行幸し、畝傍山の神武天皇陵に参拝する。行幸に際して鉄斎は、県令の内命を受けて、道筋にある神社および御陵の位置を示した図巻を制作した。また大鳥神社大宮司として、堺県行在所においてはじめて天顔を拝し、7月には正七位に叙せられた。ついで神宮祭主であった久邇宮朝彦親王が大鳥神社を参拝、これを機に鉄斎は生涯にわたって久邇宮家からの愛顧を受けることになる。

明治14年12月、鉄斎は官を辞して帰洛する。翌年には御所西に位置する上京区室町通一条下ル薬屋町を永住



参考1 京都荒神口の久邇宮邸にて 明治36年(1903) 左から鉄斎、角田敬三郎(栗堂)、栗田真秀 撮影:久邇宮邦彦王

の地と定め、自らを儒者と任じて書画の揮毫と読書中心の生活に入った。御所東の荒神口の久邇宮邸とは近く、芸術に親しみ書画を嗜んだ久邇宮家、ならびに同33年に新たに設立された賀陽宮家とも親交を結んだ。8月16日の五山送り火には久邇宮邸に招かれ、田能村直入、栗田真秀らとともに席上揮毫を行うのが恒例であったようだ(参考1)。

鉄斎は宮家の用命によって、多くの献上画を制作している。 久邇宮邦彦王の結婚祝いに描かれたとされる《瀛洲仙境図・ 森林仏教園》(1899 年、久邇宮家蔵)、賀陽宮に献じられた六 曲一双の屛風《蓬莱仙境図・武陵桃源図》(1904 年、京都国 立博物館蔵)などは、いずれも絹本極彩色の密画で、速筆で 知られる鉄斎が時間をかけて制作したであろうことが見てと れる。 天子知名 明治40年9月、鉄斎は京都久邇宮邸に召集され、侍従東薗基愛より明治天皇御用画制作の内命を受ける。鋭意制作にかかり、翌年4月に各縦2メートル、横1メートルにもおよぶ対幅「群仙高会図・阿倍仲麿明州望月図」(所在不明、参考2)が完成、6月には表装が仕上がって宮中に献納された。鉄斎は無上の栄に浴したことを記念し、篆刻家の桑名鉄城に依頼して「天子中紀」の印(No.18)を作り、また自らは「九重の恩命、雲を破りて開く。恭しく画図を献じて不才を愧ず。拙伎端無くも天覧を忝なくす。薯根の山嶽、光を発し来る」と賦して、知友と喜びを分かちあった。

鉄斎にとって記念すべき作となった 御用画は、明治天皇崩御ののち、形見 分けとして下賜され、いつのまにか民 間に流出する憂き目にあう。そしてあ る日突然、箱書の依頼のために鉄斎の 目前に現れたのである。驚いた鉄斎は 子息の謙蔵を介して宮内省に問い質し たが、要領を得なかった。この事件以 来、鉄斎は政府の役人に対して不信の 念を抱くようになる。大正6年(1917) に帝室技芸員を拝命するも、「蝙蝠が お門ちがいに舞いこんだしといって名 利には恬淡で、義務づけられた作品献 上にも応じなかった。こうした態度は、 平素の鉄斎からは考えられないことで あった。

なお、大正 12 年 8 月の東宮(昭和 天皇)と久邇宮邦彦王第一女子良子女 王の成婚に際し、奉祝記念品として京





参考2 群仙高会図・阿倍仲麿明州望月図

都市から献上された富岡鉄斎筆《武陵桃源図・瀛洲神境図》(三の丸尚蔵館蔵)は、今日も宮内庁の保管となっている。

大正御大礼 大正4年 (1915)、鉄斎は80歳を迎えていた。賀寿を祝して、久邇宮より真筆1幅、御紋附羽織1領、 鮮鯛料2千疋が贈られ、宮家紋章付きの羽織の着用を許される。

11 月、京都で御大礼が厳粛且つ盛大に挙行された。登極令に基づいて 10 日に即位の礼、14 日・15 日には大嘗祭が行われた。聖皇登極大礼記念の養老杯( $N_0$  23)を受けた鉄斎は、これを喜んで「賜杯老民」と称し、自ら「天賜寿杯」の印( $N_0$  19)を刻して記念とした。奉祝の意が込められた《萬々歳書》( $N_0$  8)、《佳実図》( $N_0$  9)、『以上の本意の表表には、「明杯老民」と称し、自ら「大明寿杯」の印( $N_0$  1)、《松竹梅霊芝絵料紙硯箱》( $N_0$  20)ほかの作品には、「賜杯老民」、「天賜寿杯」などと落款し、自身の長寿を喜び、皇恩に浴する幸せが識されている。

大正 11 年 7 月、鉄斎は正五位に叙せられる。この吉報を得て、「私は早くから長生を願って精神を養った。すでに八十七歳になったのだから長生きできたわけである。古びた顔を鏡で見ると痩せた鶴のようだ。その鶴の鳴き声、つまり私の名が宮中奥深く達しようなどとは、思いがけないことであった」との漢詩を詠んだ。この詩が賛にある《心遊仙境図》(N<sub>0</sub> 15)は、『詩経』「小雅・鶴鳴」に取材したもので、鉄斎 87 歳の傑作の一つに数えられる。天に高く聳える神山は棒墨による鋭い線と色彩の妙が秀逸で、下方の岩上で鳴く鶴は自身の姿を表しているのだろう。親しい友人に描き贈って喜びを分かった一幅である。

本展は新天皇の御即位を記念して開催するものである。鉄斎が生涯篤く敬った皇室にまつわる作品・資料を通 してその想いを感じていただければ幸いである。 (柏木知子)

#### [主要参考文献]

小高根太郎『富岡鉄斎の研究』(芸文書院、1944 年)、青木勝三『近代の美術 4 富岡鉄斎』(至文堂、1971 年)、『没後八十年 最後の文人 鉄斎 – 富士山から蓬莱山へ – 』(出光美術館、2004 年)、『富岡鉄斎 – 和泉国茅渟海畔の寓居にて – 』(堺市博物館、2017 年)。

## ≪出品目録≫

[書 画] すべて富岡鉄斎筆

番号	名 称	制作年	年齢	寸 法(縦×横)cm	材質・技法	員数
1	皇国名之書	慶応2(1866)	31	$26.4 \times 485.6$	紙本墨書	1帖
2	宗廟之詩書	明治2(1869)	34	$133.9 \times 29.6$	紙本墨書	1幅
3	花瓶図 大田垣蓮月歌賛	明治2(1869)	34	$135.5 \times 30.6$	紙本墨画	1幅
4	富士画 東久世通禧歌賛	明治時代	30代	$30.4 \times 70.6$	絹本墨画	1面
5	神武天皇像	明治時代	50代	$129.7 \times 42.3$	紙本着色	1幅
6	大嘗会図	明治時代	50代	$130.6 \times 60.3$	絹本着色	1幅
7	萬歳書	大正4(1915)	80	$39.7 \times 89.2$	紙本墨書	1幅
8	萬々歳書	大正4(1915)	80	$25.5 \times 37.4$	紙本墨書	1幅
9	佳実図	大正4(1915)	80	$129.4 \times 29.9$	紙本着色	1幅
10	東瀛神境図	大正4(1915)	80	$150.4 \times 81.4$	紙本墨画	1幅
11	万世不易平安城図	大正4(1915)	80	$54.6 \times 67.8$	紙本墨画	1幅
12	大礼記念寄書帖	大正4(1915)	80	各21.0×29.8	紙本墨画・墨書	1帖
13	不入凡眸冊	大正4(1915)	80	各27.4×22.8	紙本墨画・墨書ほか	1帖
14	鳳鳴朝陽図	大正5(1916)	81	$143.0 \times 41.6$	絹本着色	1幅
15	心遊仙境図	大正11(1922)	87	$131.9 \times 33.7$	紙本着色	1幅
16	新年言志図	大正13(1924)	89	$47.0 \times 57.5$	絹本着色	1幅

## 「その他」

番号	名 称	作 者	制作年	寸 法(縦×横×高)cm	員数	備考				
17	筆録「博覧文□」	富岡鉄斎筆	明治41年(1908)	$24.1\times16.7$	1帖					
18	朱文長方印「天子知名」	桑名鉄城刻	明治41年(1908)	$5.5 \times 3.5 \times 3.5$	1顆					
19	朱文方印「天賜寿杯」	富岡鉄斎刻	大正4(1915)	$6.9 \times 6.9 \times 3.8$	1顆					
20	松竹梅霊芝絵料紙硯箱	中島菊斎作 富岡鉄斎筆	大正4(1915)	文庫41.5×34.0×13.7 硯箱25.9×22.7×5.4	1組					
21	万歳書茶碗	初代三浦竹泉作 富岡鉄斎筆	大正4(1915)	各8.0×8.0×4.7	10客					
22	蕉葉聯	富岡鉄斎筆	大正4(1915)	各85.5×18.0	1対					
23	恩賜養老杯		大正4(1915)	$9.0\times9.0\times3.2$	1盞	富岡鉄斎箱書				
24	昭和天皇御成婚記念銀杯		大正時代	各5.0×5.0×2.7	2盞	富岡鉄斎箱書				
25	恩賜酒杯		大正時代	$12.6 \times 12.6 \times 3.9$	1盞	富岡鉄斎箱書				
26	明治天皇遺品謹模文鎮		大正時代	$3.1\times18.0\times3.5$	1個	富岡鉄斎遺愛品				
27	萬輪菊香合			$8.2\times8.2\times1.5$	1合	富岡鉄斎遺愛品				

## ·次回展覧会

開館45周年記念「清荒神と鉄斎」

前期:2020年1月5日(日)~2月9日(日) 後期:2020年2月16日(日)~3月28日(土)

会場:鉄斎美術館別館「史料館」

・鉄斎美術館・宝塚市立中央図書館聖光文庫共催企画展 「京都画壇と鉄斎-富岡鉄斎旧蔵資料を中心に-」

2019年12月8日(日)~2020年2月9日(日) 開室時間:午前10時~午後5時

休 館 日:水曜、第2金曜、年末年始(12月29日~1月3日)

会 場:宝塚市立中央図書館聖光文庫

## 清荒神清澄寺 鉄斎美術館

〒665-0837 兵庫県宝塚市米谷字清シ1番地 Tel.0797-84-9600 Fax.0797-84-6699 http://www.kiyoshikojin.or.jp